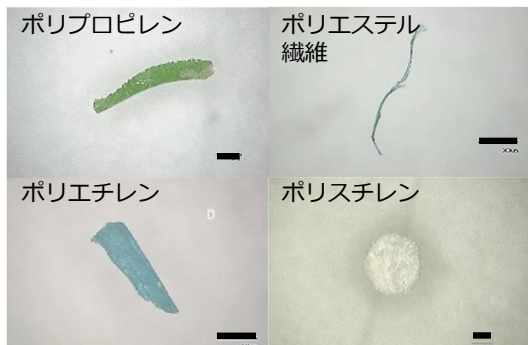


プラスチックごみに係る課題解決のための取り組み

背景

プラスチックごみ（プラごみ）のリサイクルの推進に向けた処理実態の把握や、海洋への流出抑制のための調査手法の確立が急務である。

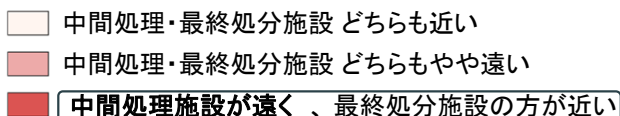


マイクロプラスチックの顕微鏡写真（黒線：300μm）

成果

1 プラごみの処理実態把握と課題整理

- ・中間処理施設よりも近場の最終処分施設が利用される傾向。
- ・最終処分（埋立）されているプラごみには、リサイクル可能なものも含まれている。



リサイクルの推進に向けて
選別等を行う中間処理施設
の整備が必要

期待される効果

プラごみ資源循環の推進方策検討や、海洋への流出量把握のための基礎資料として、国、北海道、自治体、事業者等で活用される。

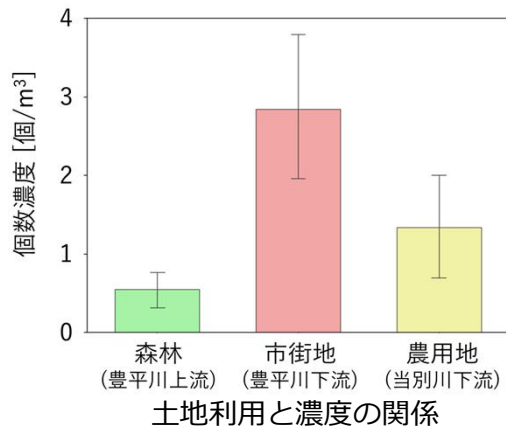
2 河川マイクロプラスチック問題への取り組み

- ・国環研等との共同研究で環境省調査マニュアル改訂に貢献(左表)。
- ・土地利用と濃度の関係などの基礎情報を取得。

マニュアルの主な改定内容

課題	改定内容
粒子径の定義が曖昧	長径⇒最大フェレ径*
絡まった繊維の形状の分類	分類に“繊維塊”を追加
高濃度試料への対応	採取基準に「マイクロプラスチックの個数」を追加

*外接する長方形の縦および横の長さ



※出典：環境省, 河川・湖沼マイクロプラスチック調査ガイドライン (2024)